



新編 多摩川癒しのデザインノート

指導者向け活動実践マニュアル



多摩川癒しの会



多摩川癒しの会の活動フィールド	
はじめに	01
あいさつ	02
もくじ	03
1. 多摩川の癒しについて	03
2. 障害者と野外活動	05
3. イベント運営のデザイン	09
4. リスクマネジメント	15
5. 遊びのデザイン	17
【春の遊び】	17
【夏の遊び】	21
【秋の遊び】	25
6. 会の歩み	29
7. 拠点づくりのデザイン	34
おわりに	

1 多摩川の癒しについて



多摩川癒しの会会長 長谷川 幹

川を癒しの場として大切にしていきたい

多摩川の河川敷で、障害者と健常者が一緒になって四季折々のイベントを行い、川の癒し効果を体験的に探りました。春は川原の野草の天ぷら試食、夏はゴムボートによる川下りや釣り、秋は芋煮会、冬は凧上げや餅つきをしたところ、毎回100～150名（障害者、子どもを含む）の参加があり、とても好評でした。車椅子で参加した、重い左片麻痺の方は車椅子から降り立ち、自分で歩き出し、家族や仲間を驚かせました。この方はその後天気がよいと毎日川に出て歩く練習を始めました。脊髄損傷で四肢麻痺の中年男性は秋の芋煮会に参加し、多くの人と交流して自信が生まれ、それまでの寝たきりに近い生活から近くの美術館に行ったり、好きだったカメラについてレクチャーする講師を引き受けたりして生活が劇的にかわりました。このような変化を起すキッカケが川にあるのです。



川原に集う参加者